



会報

全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会

第46号

発行者
全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会
会長 萬里小路伸一郎

事務局
京都府八幡市男山美桜5-27
昌玉研修会館内

印刷
山代印刷株式会社

これからのPTA

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会

会長 萬里小路伸一郎



昨年は、久しぶりの政権交代があり、いろいろな国の方針や施策が変わっていくことに期待と不安が交錯する中、幼稚園教育や社会教育にどのような影響があるのか未だ不透明な感があります。

特に、幼稚園教育に関しては、新しい幼稚園教育要領が本格実施された今年度、幼児教育無償化をはじめ、長年続けられてきた様々な幼児教育改革の議論が振り出しに戻るのではないかと懸念と、子ども手当て等に見られる給付型の子育て支援や安易な幼児三元化は、幼児教育の本質である「幼稚園教育は学校教育である」「ことや「教育の第義的責任を有するのは保護者である」ことを曖昧にしてしまうのではないかとという恐れを覚えます。

そのような中、昨年十月、特別国会と臨時国会の狭間の大変お忙しい中、川端達夫文部科学大臣と高井美穂政務官が、相川敬日本PTA全国協議会長・高間専逸全国高等学校PTA連合会長と私の表敬訪問に応じてくださいました。

お話の中で、先に述べた懸念を申し上げ、今後とも文部科学省の所管による幼児教育の充実をお願いしたところ、「福祉行政と教育行政は明確に区別している。特に幼児教育の重要性は充分認識している。」とのご回答を頂き、愁眉を開きました。

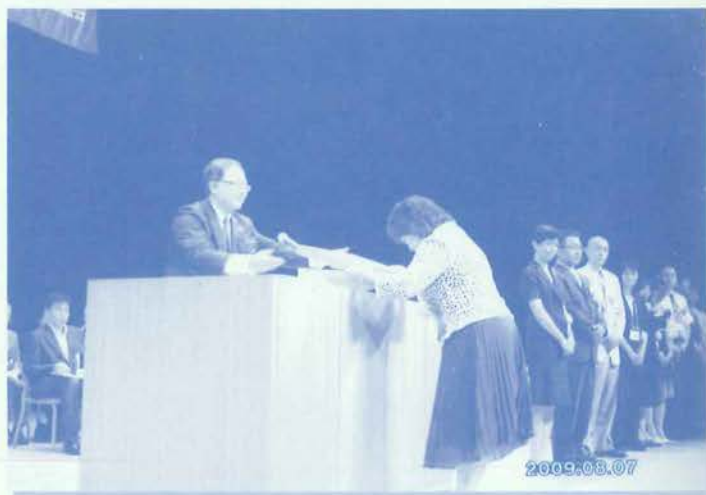
政治や行政の体制が変わっても、私たち自身が幼稚園と幼児教育について正しく理解する努力を続け自信と自負を持って子育てに当れば、子どもたちと日本の将来は必ず保障されるし、そのためには、これからPTAが重要な役割を果たすと確信します。

本会では、全国国公立幼稚園長会は元より、日Pや高Pとも連携を深め、皆様にさらにご活躍頂ける様な活動に努めますので、今年も格段のご協力をお願い致します。

平成21年度 優良PTA表彰 —— 文部科学大臣表彰 ——

平成21年8月7日、第47回全国国公立幼稚園PTA全国大会「岡山大会」会場「くらしき作陽大学」において、表彰式が行われた。次の14団体に、日頃の功績を称え、表彰状が送られた。

- 岩手県 一関市立巖美幼稚園PTA
- 福島県 いわき市立高坂幼稚園PTA
- 群馬県 邑楽町立中野幼稚園PTA
- 千葉県 千葉大学教育学部附属幼稚園PTA
- 東京都 北区立ほりふな幼稚園PTA
- 静岡県 袋井市立今井幼稚園PTA
- 静岡県 下田市立稲梓幼稚園PTA
- 大阪府 大阪市立旭東幼稚園PTA
- 大阪府 堺市立北八下幼稚園PTA
- 大阪府 堺市立百舌鳥幼稚園PTA
- 兵庫県 赤穂市立赤穂幼稚園PTA
- 岡山県 岡山市立芳田幼稚園PTA
- 徳島県 阿波市立富岡幼稚園PTA
- 香川県 三木町立平井幼稚園PTA



2009.03.07

特別寄稿

新「幼稚園教育要領」スタート

めぐす幼稚園教育とは



文部科学省初等中等教育局幼児教育課
子育て支援指導官 山下 文一

今年の4月から新しい幼稚園教育要領がスタートしました。その中で特に、幼稚園における教育の成果が小学校につながるしていくことを踏まえ、幼稚園は小学校以降の生活や学習の基盤を培う「学校教育の始まり」としての役割を担っています。

しかし、「幼稚園は、ただ遊んでいられるばかりではないか」という質問を受けることがあります。確かに、小学校のように教科書等を使つての教育ではないことから、その教育内容がわかりにくいということがあるのかもしれませんが、
それでは、なぜ幼稚園で遊びを大切にしているのでしょうか。
幼児期は自分の生活を離れて知識や技能を一方的に教えられて身に付けていく時期ではありません。生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、人格形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分からかかわろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度が養われる時期なのです。つ

まり、幼児が生活や遊びを通して、主体的に人やものにかかわることに、より、学びの芽を育んでいるのです。さらに、それら学びの芽は、小学校以降の生活や学習の基盤となります。だから、生活や遊びを大切にしているのです。

学ぶということとは、これまで経験を通してわかってきたことが、新たなことに興味や注意を向けてかわるることにより、これまで理解し身に付けていたことと、新たな気付きがつながり、理解が広がり深まる過程をいいます。

例えば、遊びの中で、幼児は「あれ？へえ」と、新たなことに気付いたり疑問を持つたりします。

また、「こんなふうにしてみたい、あんなふうになってみたい」と思うかもしれません。そして、「○○かもしれない」「○○してみよう」と自分なりに考え、試したりすることで「やっぱりそうだった」「○○だから○○なんだ」とわかったり気付いたりすることにより、充実感や満足感を味わうことができます。

また、うまくできないという経験から、新たな思いや考えが生まれ、「もつとこうしてみよう」などと工夫したり、自分の予想や発想を実現できるように表現していきます。

このように、その幼児のやり方やテンポで繰り返している試していきます。そして、その過程を通して友達や教師とかかわっていく中に、生活や遊びの中の学びがあるのです。

つまり、物事への気付きや思いをもち、そこから考えたり、試したり、工夫したりするなどの様々な形でかわっていく過程は、小学校以降の学習の芽生え、すなわち自ら課題を探究し解決していくことへの芽生えということがいえます。

それでは、生活や遊びを通して育まれる学びの芽生えについて、幼稚園における三つの具体例を幼児の生活や遊びの場面から見ていきたいと思います。

◆ 友達が手紙を書くといつて、葉書のような紙に何かを書いている。それを見ていた他の幼児も、同じように絵や文字らしきものを書き始める。そして、書いた手紙を友達に届けたり、また友達からの手紙を受け取ったりする。
このことは、手紙を友達に手渡すことの楽しさや手紙をもらった友達が返事をくれることのうれしさを、絵や文字らしきものを書くことで自分の思いを人に伝えることができるという、伝え合う気

持ちへの学びや文字などの感覚を豊かにする学びの芽生えとつながっていきます。

◆ 「おはよう」と元気よくあいさつをしている友達を見て、意味も分からずに自分も「おはよう」と元気にあいさつをする。すると、あいさつされた先生や友達が、笑顔でこたえてくれることに心地よさを感じる。

◆ チームで分かれて遊ぶとき、二つに分かれるために、幼児はいろいろな工夫をして数を数える。チームの友達の人数を数えるときには、同じチームの人を集めてから数えたり、また友達が数えたり、きちんと並べて二つのチームの人が一人ずつ向き合っていた方がどちらの数が多いかをすぐ分かることなどを、教えられるなくても繰り返しの中で発見していく。

◆ このことは、日常生活や遊びの中で、数量などへの感覚を豊かにする学びの芽生えとつながっていきます。

幼稚園教育における生活や遊びの場面を通して、学びの芽生えについて事例をあげて説明をしてきましたが、これはほんの一部に過ぎません。幼児の生活や遊びには、幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれています。

つまり、幼児期の生活や遊びの二つに、小学校以降の様々な学びの芽があるのです。

幼稚園教育では、幼児の遊びを相互に関連を持たせ、つながることにより、しっかりと芽に育てていきます。そしてその芽は、小学校以降の生活や学習の基盤となり、生涯にわたる学習において花や実を豊かにつげるための根や芽となるのです。

さらに、これらの芽をより確かなものにしていくためには、幼稚園が、幼児の芽生えの姿や発達の見通しを保護者の皆さんに伝えることが大切です。

一方、保護者の皆さんも入園から修了までの幼稚園の様々な活動の中で、芽生えを培う幼児期について理解を深め、幼稚園と共にその芽を育てていくことが大切です。

幼稚園と保護者の皆さんが、具体的な幼児の姿から発達や生活の状況について話し合い、また、互いが理解し、その成長を共に喜び合える関係を築くことが、これからの幼稚園教育にとって大切なことではないでしょうか。

第四十七回全国国公立幼稚園PTA全国大会 総会ならびに研究協議会

岡山大会

大会報告

晴れの国「岡山」、そして、「子育てするなら倉敷で」といわれる、いにしへの情緒豊かな倉敷市において、「岡山大会」が、文部科学省をはじめ多数のご来賓をお迎えし、全国各地から、二〇〇人に及ぶ会員が参加して盛大に開催されました。

開会式・総会に続いて、大会主題「夢」晴れの国 岡山から笑顔で輝く子どもたち」に基づき、家庭・地域・幼稚園が連携して親子がともに成長する実践が発表され、参加者に感動を与えました。

文部科学省の講話「これからの幼稚園教育―家庭と幼稚園の連携―」に続いて、特別記念フォーラムでは、バルセロナ・アトラクタオリンピックメダリストの有森裕子氏が、「夢―子どもたちへのメッセージ―」と題して、氏の体験を通して、子どもの可能性を開く子育てに厚いメッセージが語られました。参加者一同大きな感動を受け、子育ての大切な指針を頂くことができました。

大会要項

一 大会主題

夢

晴れの国 岡山から
笑顔で輝く
子どもたち

二 期日・会場

平成二十二年八月六日(木)～七日(金)

倉敷アイビースクエア

くらしき作陽大学

三 日時

八月六日(木)

・会計監査・役員会・理事会

・情報交流会

八月七日(金)

・開会式

・総会

・研究協議

・講話

・記念公園

・閉会式



表彰状・感謝状受賞者(敬称略)

全国国公立幼稚園PTA
連絡協議会会長表彰

全幼P副会長

東京都 中山 博子

全幼P監事

福岡県 福田 京子

全国国公立幼稚園PTA
連絡協議会会長感謝状

千葉県国公立幼稚園
PTA連絡協議会



平成二十二年度活動方針 ならびに事業計画

一 活動方針

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、結成以来、日本の子どもの幸せと未来を保障するため、幼児教育の振興に、さまざまな形で寄与すべく活動を続けてきた。

また、幼児の育成に関わるものとして、自らその責任を自覚し、資質と見識の向上に不断の努力を傾注してきたと自負するものである。

しかし、現下の幼児を取り巻く環境は、少子化、価値観の多様化に加え、世上の幼児教育に対する理解不足のため、看過できない問題が山積している。

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、学校教育・生涯教育の原点は幼児教育にあることを再確認するとともに、全国の国公立幼稚園においてなされている教育が幼児教育の最上のものであると確信している。私たち保護者・教師は幼児育成の直接の当事者である責任を認識し、全国国公立幼稚園長会との連携を密にして、以下の項目の実現を目指した行動の推進を活動方針とする。

記

- (1) 義務教育化を前提とした幼稚園教育の充実
- (2) 家庭・地域の教育力の再生・向上
- (3) 会員の資質向上と組織強化
- (4) 国公立幼稚園教員の待遇改善

二 事業計画

四月～五月

- 加入園へ会費納入と岡山大会案内状発送
- 未加入園へ加入依頼書と岡山大会案内状発送
- 平成20年度会務報告と決算報告書作成
- 平成21年度理事名報告依頼
- 平成21年度陳情書作成

一月～三月

- 会報46号発行
- 未加入園へ加入呼びかけ
- 平成21年度会務報告と決算の中間報告書作成
- 第3回理事会(東京)
- 理事会での検討事項の処理

六月～七月

- 全幼P全国大会(岡山大会)後援名義使用許可願発送(園長会)
- 岡山大会の助言者依頼
- 第60回全国国公立幼稚園長会総会(愛知)で本会発展の協力依頼
- 陳情(文部科学省総務省)副会長会(東京)

八月～十二月

- 平成22年度「愛媛大会」における提案発表について依頼
- 第56回全国国公立幼稚園教育研究協議会「長崎大会」会長出席
- 会計監査・役員会、第1回理事会(岡山)
- 第47回全国国公立幼稚園PTA連絡協議会総会ならびに研究大会(岡山)
- 岡山大会決定事項の処理
- 会報(46号)原稿依頼
- 第48回全国国公立幼稚園PTA全国大会実施説明会(愛媛)
- 全幼Pアンケート実施
- 平成22年度活動方針・事業計画書案と予算案作成
- 第2回理事会(京都)
- 理事会での検討事項の処理

年月日	摘要	年月日	摘要
4月1日	●入会並びに会費納入についての文書(加入園・本会入会文書)未加入園へ発送 ●平成20年度理事名報告依頼(都道府県事務局)	8月7日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(千葉)
10日	●千葉大会開会式(臨席と祝辞依頼(文部科学大臣・全国園長会長))	8日	●第46回全国国公立幼稚園PTA全国大会(千葉大会)開催
28日	●千葉大会開会式(臨席依頼(文部科学省・全国園長会長・全幼P顧問))	11日	●全国大会礼状発送(文部科学省・全国園長会長・全幼P顧問・大会開催地)
30日	●千葉大会最終案内発送(全幼P役員) ●千葉大会について後援名義使用許可申請書提出(全国園長会長)	9月3日	●会報(46号)原稿依頼
5月10日	●千葉大会研究協議会助言者推薦依頼(文部科学省生涯学習政策局長)	9月12日	●第2回理事会案内状発送
21日	●千葉大会研究協議会助言者推薦依頼(文部科学省生涯学習政策局長)	10月1日	●全幼Pアンケート実施依頼状発送(加入園)
23日	●千葉大会研究協議会助言者推薦依頼(文部科学省生涯学習政策局長)	10月1日	●第47回全国国公立幼稚園PTA全国大会岡山大会実施説明会(岡山)
6月6・7日	●千葉大会研究協議会助言者推薦依頼(全国園長会長) ●「市町村立幼稚園の設置廃止等に係る認可制の見直し」(地方分権改革推進委員会)について文部科学省のヒヤリングに対応(会長意見陳述)	11月12日	●第2回理事会開催(京都市)
9日	●陳情並びに副会長案内状発送	20日	●財団法人日本PTA創立60周年記念式典会長出席(東京)
18日	●第59回全国国公立幼稚園長会総会・研究会(群馬大会)に会長出席(群馬)	1月19日	●岡山大会第一次案内・千葉大会集録・会報45号発送
20日	●陳情並びに副会長案内状発送	2月2日	●文部科学省・日本PTA全国協議会・全幼P顧問(役員)
7月7日	●平成21年度(岡山大会)における提案発表について依頼(島根・山口・宮崎)	2月13日	●第3回理事会案内状発送
9日	●陳情並びに副会長案内状発送(東京)	3月4日	●会報45号発送(千葉岡山大会事務局・寄稿者・全幼P理事・加入園各県園長会長他)
10日	●平成20年度PTA活動振興功労者表彰(文部科学大臣表彰)被表彰者並びに 平成20年度優良PTA文部科学大臣表彰被表彰団体一覧表受領(文部科学省)	24日	●愛媛大会開催について依頼(愛媛大会西松運営委員長)
16日	●幼稚園教育フォーラム(文部科学省初等中等教育局幼児教育課主催)に会長出席	3月4日	●岡山県庁・倉敷市庁表敬訪問
25・26日	●第55回全国国公立幼稚園教育研究協議会「島根大会」会長出席(島根)		●第3回理事会開催(東京都)

大会宣言

今の子どもたちはどんな夢を抱き、将来どんな大人になりたいのでしょうか。そしてどんな人生を送るのでしょ。そのようなことを思うと我々は今、何をどうしていけばいいのか考えさせられます。子どもたちには、夢を追いかけ憧れに向かって毎日を友達と楽しく遊び、学ぶ権利があります。そして大人には、子どもたちが目標に向かって頑張りぬき、心豊かでたくましく生きる力を育むための環境を整えていく義務があります。

近年の少子高齢化、情報革命の急進、価値観の多様化による社会の複雑化、世界経済恐慌による生活不安等により、社会は激変しています。その結果、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化し、信じられない事件や事故が多発しています。しかし、このような時代であろうとも、子どもたち一人一人が自ら学び自ら考え行動できる「生きる力」の基礎を培い、未来に夢を膨らませ、個性豊かな花を咲かせ、自分を輝かせていくことが重要であります。

子どもは親の背中を見て育つという言葉があるように、我々保護者も夢や目標に向かっていく姿を見せることが、大人に課せられた責任ではないかと考えます。

本会は、これからの未来を担う輝かしい子どもたちのために、それぞれの地域で考え、取り組んでいる活動を提示することで、問題意識を共有し、時代に即した解決を目指していきます。このことが、今まさに国公立幼稚園関係者に課せられた重要な役割であると考えます。

以上のことを踏まえ、私たちは、「夢」晴れの国 岡山から 笑顔で輝く子どもたち—を大会主題に掲げ、夢や憧れ、目標に向かって頑張ることの大切さ、すなわち心の持ち方の重要性を子どもたちに伝えながら、すばらしい社会の実現に向けて邁進していく所存です。

ここに、第四十七回全国国公立幼稚園PTA全国大会岡山大会の名において、次の決意を宣言します。

- 家庭・地域・幼稚園の教育環境の充実に貢献します。
私たちは、幼児が成長する過程において接するすべての環境に留意し、とりわけ直接幼児の教育環境となる家庭・地域・幼稚園の三者が有機的に機能するよう支援します。
- PTA活動を通して生涯学習意欲を高めます。
私たちは幼児の健全な成長が、大人の日頃の見識と行動によるものであることを強く認識すると共に、不断の努力により、私たち自身が成長を続けることの一助となるPTA活動を創意工夫します。
- PTA組織およびその運営の充実を図ります。
私たちは、右記の二つの趣意をまっとうするために、本会、各PTA連絡協議会並びに各単位PTA組織の充実を図ると共に、行政機関及び様々な社会教育関係団体と連携して、より幼児教育が深まるようなPTA活動の運営に努めます。
- 幼児の安全確保と幼稚園の安全管理を強化します。
私たちは、幼児が安心して生活できるよう、安全確保に向け、施設・設備の改善及び管理体制の充実を関係当局に強く要望します。
- 幼稚園教育の義務化と幼児教育諸条件整備を訴えます。
私たちは、少子高齢化が進み、子育て支援のあり方が多様化する中で「幼稚園教育の義務化」「三歳児保育の推進」「公立幼稚園未設置市町村の解消」「国公立幼稚園教員の待遇改善」等を関係当局に強く要望します。

平成21年8月7日

第47回 全国国公立幼稚園PTA全国大会 岡山大会

研究協議

提案発表1

心・手をつなぎ共に育ち合う 荒島つ子をめぐって

幼稚園PTAと

保育所保護者会の連携を通して

島根県安来市立荒島幼稚園

21年度PTA会長 岡崎 茂



一 はじめに

本市は島根県の東端にあり、四季折々の風光に恵まれている。また、安来銅、安来節発祥の地である。本園は、安来市の西に位置し、梨を中心とした果樹園、稲作農家が多くあるが、若い世代が働きに出るため、専業農家は減少している。一方、新興住宅地の開発で核家族化も進んでいる。

二 幼稚園・保育所合同保育の歩み

荒島地区には、中学校、小学校、幼稚園、保育所がある。幼稚園・保育所共に歴史は古く、両親が農業や職業を持つ家庭の子どもの年齢が小さい1歳から3歳までは保育所に行き、4歳あるいは5歳になると幼稚園に入園し、小学校に進むのがお決まりのコースだった。また、近距離に在りながら、長い間幼稚園と保育所は交流がなかった。その後、社会事情の変化により、保育所から小学校、又は幼稚園から小学校へと、親の就労等の事情により分かれることになっていった。

その様な背景の中で、小学校に入学してから幼稚園と保育所の出身の違いによる壁があり、児童も保護者も人間関係を築いていくのが難しい状況にあった。

そこで、小学校と連携を取りながらの幼・保両者の就学前の等しい教育が望ましいと考え、平成16年9月より園児数減少による幼稚園の空き教室を保育所5歳児の保育室として使用し、同じカリキュラムによって合同保育が開始された。

合同保育を開始するにあたり、幼稚園PTAと保育所保護者会が準備会を立ち上げ、協議を重ねていった。「保育所と合同保育を行うと、幼稚園教育が崩れるのではないかと」と当初は懸念する声もあった。しかし、合同保育を開始後、幼保の壁がなくなり、生活習慣や人間関係を身に付ける力が育まれている等歓迎する声が増えた。

三 園とPTAの組織

園児・職員数	幼稚園	保育所
5歳児	16	18
4歳児	4	22
3~1歳児	0	35
合計	20	75

PTA役員組織	幼稚園	保育所
会長	1	1
副会長	3	2
クラス役員	4	7
監査	2	2
合計	10	12

幼稚園 園長1人、園長補佐1人、教諭1人、講師1人、保育員 所長1人、所長補佐1人、保育士8人、調理員1人、パート職員4人

四 活動の実例

幼・保合同保育を実施するにあたり検討会を立ち上げ、行事内容協力体制、参加の在り方について検討し、協議した。

近年の社会状況の変化に伴い、PTA行事への積極的参加が難しくなってきた。幸いにも合同で活動することで、人員の確保ができ、アイデアが豊富になる。また、地域性もあり、保護者同士が幼なじみや同級生という関わりの強い利点もある。

(活動例)

園内環境整備 あらしま元気づこ祭り、合同親子運動会等

力を合わせたことで、今までできなかったことでも実行できた。行事後の反省会が盛り上がり、連帯感が生まれ強くなった。

五 おわりに

従来の行事運営にこだわることなく、幼保の保護者双方が、ノウハウを出し合い、取り組む体制ができた。幼稚園PTAは、「保護者全員で活動しましょう」を合言葉に、保育所保護者会と、そして職員・地域の方々と心・手をつないで「荒島つ子」の健やかな育ちを願い、実践していきたいと思う。

提案発表II

近隣幼稚園と連携して園児に「生きる力」を育てる活動の在り方について

宮崎県都城市立高城幼稚園 20年度PTA会長 安藤 一彦 (発表者: 藤井)



一 はじめに
都城市内には市立幼稚園は三園のみで、宮崎県内でも幼稚園が隣接しているのはこの地域だけである。

園児数は、本園51名、石山幼稚園10名、有水幼稚園10名、合計71名。一堂に会しての教育活動は、園児一人一人のコミュニケーション能力を育むとともに、生活行動様式を身に付けるなど、「生きる力」の育成に大きな力となっている。特に少数の二園には、大きな成果を挙げている。

二 三園が連携して取り組む活動の内容

(1) 三園PTAによる事前協議会の実施
合同での常時協議が困難なため、各種活動の実施前には必ず三園PTA代表による事前打ち合わせ会を実施。

(2) 三園PTA合同研修会
子どもたちの生きる力を育成するために、PTA自体にも教育力をつける必要があった。

(3) 親子スポーツ教室
最近では保護者の多忙感から、親子が一緒に体を動かして遊ぶ機会が少なくなっているという反省から実施。この教室では、特に父親の参加を強く呼びかけた。

(4) 合鴨放鳥
温かい心を持った子どもを育てるには、直接鳥に触れて、温もりを感じる事が大切。同時に命の大切さも学ぶ。合鴨放鳥の農家において田んぼに放鳥する活動を行った。

(5) 合同運動会
顔合わせのために年度初めの5月に、三園合同の運動会を実施することで、その後の活動がスムーズになる等の成果を挙げている。

(6) ドングリ拾いとそれを使った創作活動
自然を通しての情操教育や協力して創作活動に取り組む子どもを保護者が我慢して見守る等の活動の目的を明確にすることで、「指示待ちの子ども」ではなく、「自ら動く子どもの姿」の実現が重要であることを保護者が認識した。

(7) リサイクルセンター見学
使用済みの牛乳パックからの葉書作り体験は、園児に新鮮な驚きを与え、環境への意識を養えることができた。

(8) もちつき大会
三園合同の取組の総まとめとして12月に実施。子どもたちの祖父母と一緒に三世代のもちつき大会となった。

園児たちは、高齢者の方の活躍に驚き、尊敬の念を持つことができた。

三 まとめ

(1) 成果
① 園児同士のコミュニケーションを活性化することができた。
② より良い親子の交流が図られた。
③ 親育ての成果。親が待つことが、子ども主体性・積極性を育てるということを学んだ。

(2) 課題

① 事前協議の時間確保が困難。子どものためにという保護者の心を育てることが課題。
② 保護者の移動時の事故等の対応の問題。園児は市のバスを無料利用でき。

三園の保護者・指導者が共通理解をすることが大前提のこの活動は、「全ては子どものため」という情熱がなければ成果を得られない。

これからの日本を背負っていく子どもたちを育てるために親としての大人が苦勞をいとわず、子育てのために手間暇をかけることを大事だということを強調したい。

提案発表III

夢に向かってぐんぐん伸びよう、親子の姿 ふれあい活動を通して

山口県下関市立第一幼稚園 20年度PTA会長 百留 一寿



一 はじめに
下関市の公立幼稚園は市町村合併後24園。

本園は創立110周年を迎え、市内で一番古く、歴史がある。少子化やドーナツ化現象により、現在は4歳児16名、5歳児24名で2学級の小規模園である。

本園は、下関市の中心地にあり、交通量も多く、周りに遊び場が少ないので週3〜4日園庭開放をしている。また、近くに図書館や子育て支援センターがあり、教育環境にも恵まれている。

二 PTAの組織・運営

執行部を中心に、文化部・保体部があり、どの活動も全保護者で役割分担をしている。

三 活動の実際

(1)「夏のふれあいの夕べ」

子どもたちが喜ぶように全保護者が協力して準備した。

「夏のふれあいの夕べ」は、子ども御興や下関音頭や母親の準備したゲームを楽しんだ。片付けは父親が協力してくれた。「秋のなかよし祭り」では、バザーと共に、日頃なかなか自分ではできない園庭の遊具のスタンブラリーを実施し、父親に協力してもらいながら園児たちが挑戦した。父親が行事に参加することの大切さを実感した。

(2)「お父さんと遊ぼう会」

日曜参観日に父親だけの会を実施。前もって、遊びや特技についてのアンケートを取り、計画。1月なので、正月遊びを中心に、戸外でのボール遊びやこま回し、相撲をし、製作コーナーでは、糸電話やこま、たこ、びゅんびゅんこまを作つて楽しんだ。

平成21年度は、父親の要望で学期に1回この会を計画。

(3)家庭教育学級(5回実施)

①地域の婦人会長さんによるフラワーアレンジメント

②体操教室の先生による親子体操や運動遊び

③絵本の読み聞かせ

④消防士の方による「生命の大切さ」についての講話と実技(保護者のみ)

⑤小学校の校長先生による「親として

の心構えの講話」

(4)人形劇「はなのすきなうし」

毎年人形劇団「ぐんぐん」の有志を募り、手作りの人形劇に取り組んでいる。昨年度はPTA活動の「夢に向かっ」というテーマに合わせて、子どもたちが夢を持つことの素晴らしさを教えた。また最後は、金子みすずさんの「みんなちがってみんないい」という詩で締めくくっている。

公演は、教育委員会主催の公立幼稚園「親子ふれあい集会」でも行い、その反響で他園から出前人形劇を依頼され、とても喜ばれた。

四 おわりに

近年少子高齢化、学校・園の統合化、幼保三元化など、私たちを取り巻く環境が急速に変化している。子どもたちが夢や希望を持って、心豊かに育つためには、家庭・園・地域の連携・相互協力がこれまでに重要である。私たち一人一人が、そういう思いや願いを込めたPTA活動を展開し、次年度へと伝えていくことが大切だ。



指導助言 I
神代 浩様
文部科学省生涯学習政策局社会教育課長

幼稚園は、子どもにとつていわゆる社会に出るデビューの場であり、親にとつてはPTAデビューの場である。三団体の話はいけるか、あるいは積極的に参加する意欲が湧くかという二つの問いに対する答えになったように思った。

★鳥根県安来市立荒島幼稚園

行政のレベルにおいても幼保三元化を徐々

に進めてはいるが、双方それぞれのルールがあり、その間をどう調整するかという点で時間や手間が掛かっている。その部分を同じ子どもを持つ親同士協力しようという前向きな気持ちで、幼保合同の活動にここまで具体的に表れている点が素晴らしい。それぞれの長所を活かすと共に、短所を補い合い、また、その役割を特に保護者の皆さんが先頭に立ってしているのが非常に画期的だ。

★宮崎県都城市立高城幼稚園

三園の連携については、幼稚園としての適正な規模についての課題が背景にある。小規模園では友だち関係が固定されたり、小学校における大きな集団内の活動の支障を危ぐされる。また、大規模園では、先生の指導が行き届くのかというような心配につながる。この例は、幼稚園教育における理想的な人数を考えるヒントとなるのではないかと考える。

また、両親だけでなく祖父母世代の参加が、PTA活動に厚みを持たせている。自分の親に祖父母が指導するという姿を子どもたちに見ることがもたらす教育的効果が非常に大きいのではないかと、興味で、大変興味深く拝聴した。

★山口県下関市立第一幼稚園

安来市の例と表裏の関係であり、次のステップとして安来市の場合は他幼稚園との連携、また都城市の場合は逆に保育園との連携というように発展していく可能性をも感じた。

★鳥根県安来市立荒島幼稚園

行政のレベルにおいても幼保三元化を徐々

厚みが出るのではないだろうか。また、人形劇の活動が非常にユニークで感銘を受けた。この活動がきっかけとなって、他園で親父バンドなる特色ある活動が生まれれば、PTA活動は更に発展、可能性が出てくると思った。

指導助言 II

岡上 直子様
全国国公立幼稚園長会会長



どの発表も保護者の皆様の意気込み、あるいは子育ての喜びがあらわれていて、子どもたちだけでなく、保護者も輝いていたと感じた。全国の幼稚園がこういうPTAの皆さんに支えられていると思うと、感謝の気持ちでいっぱいだ。

★鳥根県安来市立荒島幼稚園

5歳児に続いて平成20年から4歳児も合同保育になったのだが、このように上手にいったことの二つは、開始までの赤裸々な保護者の不安が吐露され、その中でも実施する方向に進んだことから生まれた相互理解や共同意識ではないだろうか。不満を述べるといことは大事で、その部分で解消された問題もあると思う。

また、園や保育所任せにするのではなく、幼稚園PTAと保護者会とが一緒に前に進もうと準備会や協議会を持たれたのは、非常に重要で価値がある。

これまでの行事運営にこだわることなく、幼保の保護者双方がノウハウを出し合い、できないかと思つてきたことが可能にしたり、取り組む体制ができたことが素晴らしい。保護者全員で活動することが成功の要因であり、お互いに助け合う心を育て、助け合う地域を育てるのだと思う。

★宮崎県都城市立高城幼稚園

PTAの合同研修が、園の交流教育活動を理解することにつながった事例である。特に親子スポーツ教室は、子どもも考える体を動かすことの価値の実践である。それは、体を動かせば気分が変わり、別の解決方法が見つかるというような無理屈なのだが、子どもが喜ぶという観点から実施している点が素晴らしい。

また、ねらいを明確にしておくことで、自ら動く子どもを育てるという事例は、保護者の学びを支えているのは幼稚園なのだと感じた。このように保護者に気付いてもらうには、園教員が保護者に望んでいることを受け止めながら解説していく必要がある。

いろいろな場所で活動することで、子どもの学びの多様性を保証したのが素晴らしい。

★山口県下関市立第一幼稚園

父親を巻き込む工夫をしている点が素晴らしい。家族同士で楽しむイベントの他に、子どもと父親が一緒に挑戦するスタンブラリーや、事前準備をしっかりした「お父さんと遊ぼう会」。子どもより夢中になるお父さんのモデルを示すという意味でも価値がある。

また、家庭教育学級では、小学校長さんの出番を作っているが、巻き込みたいと思った相手の出番や有能感をくすぐるような場面を作り、喜んで支援していたことが大事だと思われる。

そして、人形劇を他園でも公演するようになったということ、成果が認められる喜びは子どもも大人も同じだということを感じた。打ち上げ等達成感を共有することは、また次の意欲につながっていくものである。

二つの発表も沢山の知恵やヒントが示されている。ぜひこの大会で学んだことを活かせるよう、知恵を持ち帰り、地域に広げ、地域のきずなを強めていきたい。

演 講 記 念

夢

子どもたちへの
メッセージ

講師
バルセロナ、アトランタ
オリンピックメダリスト
有森 裕子氏



で消せますが、言葉は心に刻みまますから消えないんです。特に言葉のキヤッチは小さい子どもほど、非常に繊細です。
こうして小学校六年の時の母と安藤先生の言葉を自分の中の少しの自信に変えて、次の中学校で私は自分自身で二生懸命頑張れるものを探す事になります。それが、運動会の八百メートル走でした。出来ない子がチャンスを得ようと思ったら、人がやりたがらない事を選ばないんです。
自分なりに二生懸命練習をしました。両親も応援してくれましたし、特に兄は一緒に走って走ってくれて、家族全員が支えてくれました。そして年生で出場して、全学年の中で優勝という結果を出したんです。生まれて初めて二生懸命頑張ればできるんだと、自信を持てた経験でした。

陸上に向いていないと言われる脚なんです。私はこの言い回しに救われました。そして、先生にトレーニングをすることで、第二の骨ができて、太くて丈夫な骨になると言われました。噛みたくない話なんです。これは私にしかできないトレーニングだ。と思つてやつた末、本当に骨ができたんです。自分の持つているマイナスのもので、あきらめずに頑張ればプラスに変える事ができるんです。

また骨は、十年以上かかつてこうつ作られていくんだそうで、私の食生活を親が、特に母が気を遣つてくれて、かなり丈夫な脚ができました。当時マラソンランナーのほとんどが骨粗鬆症の中、オリンピック選手の中で私の骨密度が一番だつたんです。そして、リクルートに入れてもらえはしたけれど、実績もなくタイムの遅い私に小出監督は、私の小さな良いところを二生懸命探してくれました。「体の素質は無いが、マラソンランナーに必要な気持ちの素質は世界だ。」とか、猫背の私に「ランナーというのは前傾しなきゃいけないから、それはいい特徴だ。」と言つてくれたんです。別な冗談で言っている訳ではないんです。子どもも大人も悪いところを悪いと言つて伸びるものもありません。悪いところをプラスに変える方向にどれだけ周りが言つてあげられるかが大事なんです。最近マラソン大会で親子レースが組み込まれている事があります。親が子どもの三、十年先を見て言葉を吐く事が原因で、子どもがパニックしてしまう光景を見る事があります。子どもが安心して進んで行くためには、大人が子どもの夢を追うベイスに合わせる事が大事です。大人が急かしたり、必要以上に求めたりせず、子どもが生懸命やっている事を見つめてあげてほしいんです。

この会場の半分以上が私と同年代の方だと思いますが、実は私はまだ子育ての経験がありません。ですから、今日は辛抱強く私を育ててくれた母の事や子どもとしての立場からの話をしたいと思います。
オリンピックメダリストになれた私ですが、実は産まれた時、両脚共に股関節脱臼だったんです。母はそんな私のために生懸命治療方法を探してくれて、ドイツ製の最良の矯正器具をこの岡山で手に入れてくれたんです。しかし、治つたにしても私の脚は非常に動きが悪くて、母はいつも私にかけてくれました。また、小学校に行つても私は人より動きが遅く、注意力散漫で、今という学習障害やなにか症候群というものに当てはまるような子でした。ですから、母は苦勞し、相当辛抱したと思います。

安藤先生が、「短所は特徴。人と違つてええ。お前はお前。そのまま頑張つてみい。十分力は持つから。」と言つてくれたんです。この言葉は、私の気持ちを飛躍的に染み込ませてくれました。

実は中学校で私は、バスケットボール部だつたんですが、諦めずに三年間続けました。チームプレイが向いていないという事がわかりましたが、この経験は私にとつて決して失敗ではありません。周りから見たら私はたくさんの失敗をしてきたのかもしれないが、私がそう思っていない。その事が大事なんです。なぜなら周囲の大人がだれも私に対して失敗という言葉を使わなかつたから。だから、この道が途絶えなかつたんです。

特に高校三年間、全く結果の出せなかつた私に当時関わつた大人で、「やめろ」と言つた人はだれもいません。

私が走る事を選んでやつていく中で、両親が私に結果や順位、走り方について何か

ただ、怒る時は非常に怒る母でした。母にたたかれた事もあります。常に真正面からぶつつかけてくれました。その中から私はたくさんの事を学びました。よくけんかになつたので、大学に行くまで母のことは嫌いでした。母のことを好きになるのは非常に遅かつたんですが、母が真剣に涙ながらに話してくれた事は、子どもとしての理解できなくても今の私の中にちゃんと残つているんです。

そんな状態で、何でもできる兄と違い、できることの少なかつた私は、自分に自信がありませんでした。でも、小学校六年生の時、恐ろばかりこぼす私に体育教員の

事です。当時の担任が、「有森さんは注意すると母が、「先生、この子の悪い所はもう十分分かりました。ただ、つでもいいのでこの子の良いところを聞かせてください。」と切り返したんです。すると先生が慌て、「娘さんは天真爛漫です。」と、答えたんです。言葉マジックです。注意力散漫が天真爛漫に変わつて私は喜び、その時の母の気持ちがあまた嬉しく思いました。

私を治療してくれた川崎病院の整形外科の先生も「こりやあまあ立派な脚じゃのう」と言つてくれました。普通なら

私もスポーツを通して、より心身共に健全なる精神を育成できるようなプログラムを組んで行きたいです。スポーツは、社会のルールや食、健康の大切さを教えられる一番いい方法です。また、チームプレイを通してコミュニケーションの大事さが教えられ、勝負の中で思いやりの心を育てます。そういった意味で、私は子どもたちの次なる成長の段階において、スポーツを手段として子どもたちの未来を応援していきたいと思つています。今後も皆さんとつながり、頑張りたいと思つていますので、よろしくお願ひします。

言葉は「言葉」と言います。言葉にはものすごく想いが入ります。本人が平気で発した言葉も聞き手にとっては生残る場合もあります。書いたものは消しゴム

で消せますが、言葉は心に刻みまますから消えないんです。特に言葉のキヤッチは小さい子どもほど、非常に繊細です。

私が走る事を選んでやつていく中で、両親が私に結果や順位、走り方について何か

次回ぜひ母を呼んでください。ありがとうございました。

次回ぜひ母を呼んでください。ありがとうございました。

平成二十一年度 陳情報告

平成21年7月8日、全幼P万里小路会長、全国国公立幼稚園長会長、事務局長、全幼P役員、東京都理事1名の計13名が午前10時から文部科学省へ陳情を行った。

文部科学大臣は不在であったが、お忙しい中、銭谷事務次官、寺西前川・徳久大臣官房審議官、清水生涯学習政策局長、金森初中等教育局長、関財務課長、濱谷幼児教育課長の皆様にお目にかかり、温かく対応していただいた。午後は、総務省へ陳情を行い、幼稚園の現状をご理解いただき、好意的に対応をしていただいた。

また、10月21日には、万里小路会長が、日P会長、高P会長と共に大臣表敬訪問に参上し、川端達夫文部科学大臣、高井美穂文部科学大臣政務官には、お忙しい中、幼児教育の重要性について傾聴いただき、ご理解を頂いた。

(ここに陳情書の全文を載せる)

要望事項

一 国策として、幼稚園教育振興・充実を図っていただきたい。



公立幼稚園未設置市町村が、全国で八七七(四十八%)あります。これら未設置市町村を解消し、幼稚園教育を希望するすべての幼児が完全に就園できるよう、次の項目を強く要望します。

- 1 市区町村に対する公立幼稚園設置義務化のための法整備
- 2 三年保育の実施拡大
- 3 財政難を理由にした幼稚園の統廃合抑制・民営化の阻止
- 4 幼稚園における子育て支援のための財政措置

二 幼稚園教育環境の整備・拡充を図っていただきたい。

公立幼稚園は小・中・高等学校と教育環境において様々な格差があります。幼稚園教育充実のため、人的、物的、及び、制度的環境の整備拡充がなされるよう、次の項目について特段のご高配をお願いします。

- 1 専任園長・教頭、養護教諭、事務職員の配置
- 2 発達の特性に応じたきめ細やかな指導をするための教員数の確保
- 3 都道府県及び市区町村教育委員会に於ける幼児教育専門の指導主事の配置
- 4 安全管理・危機管理の人員・施設・設備等の改善
- 5 幼稚園施設の耐震化推進

三 国公立幼稚園教員の職責にふさわしい処遇を図っていただきたい。

人間形成の基礎を培う重要な幼児期の教育にかかわる幼稚園教員の待遇改善と、資質向上を目指し、次の項目実現のための制度を確立してください。

- 1 幼稚園教員に対する教員職俸給表の適用
- 2 ライフステージに応じた研修経費の確保

平成二十年度 理事会報告

第二回

期日 八月六日(木)

場所 倉敷アイビースクエア

準備方端行き届いた会場で、なかなか中にも熱気あふれる理事会であった。

万里小路会長、岡上顧問の挨拶の後、猪木運営委員長から大会の概要の説明があり、続いて、平成20年度会務・決算報告、本年度活動方針、事業計画、予算の報告、優良PTA文部科学大臣表彰、会長表彰、会長感謝状贈呈者について報告。次期大会開催地の取り組み、22年度提案案等について協議が行われた。

役員改選については、各ブロックから選考委員を選出後、委員により役員が選出され、理事会で報告された。

第二回

期日 11月11日(水)

場所 京都市子育て支援総合センター

こどもみらい館

開会に先立ち、顧問として長年お世話になった武藤嘉文氏ご逝去に際し黙祷を捧げた。

万里小路会長、深町顧問の挨拶の後、岡山大会運営委員会からお礼の

挨拶があり、大成功裡に終わったことを確認した。次期開催地愛媛大会西松実行委員長から概要の説明があり、多数参加が呼びかけられた。続いて、平成22年度の活動方針、事業計画、陳情書の各案、平成23、26年度の大会開催地等について協議が行われ、大阪府・東京都・島根県に続いて秋田県が確定した。

第3回は、平成22年3月5日(木)、東京都国立オリンピック記念青少年総合センターに於いて開催の予定



おめでとう

全幼P全国大会「岡山大会」で、幼稚園の優良PTAとして、栄えある文部科学大臣表彰を受けられた14団体の中から、紙面の関係で、ここに三園のPTA活動を紹介します。

絆を深めるために

東京都北区立ほりふな幼稚園
教頭 庄子 巳代子

二十七名と少人数でアットホームな雰囲気のある園であり、保護者同士も「子供たちのために」を合言葉に、協力しあい企画・運営をしています。

この度、平成二十二年度優良PTA文部科学大臣表彰をいただき、誠に光栄なことでございます。

これもひとえに歴代の会長様をはじめ、保護者の方々や地域の皆様のご理解とご協力をいただき、子供たちのより良い成長を願って活動を積み重ねてこられた結果と、心より感謝いたしております。

北区は東京都の北部に位置し、東は隅田川、北を石神井川が流れ、さらに荒川を隔てて埼玉県に接しています。

又、本園は北区の中で南東部に位置する堀船地域の中にあり、住宅地とともに、周りには中小の工場が多数立地しています。

園児数は四歳児、五歳児合わせて

PTAの組織と目的

本園のPTAは、会長・副会長・書記・会計・会計監査役を置き、月三回の三役会・運営委員会を開く中で、園児の福祉の増進、幼児教育環境への協力及び援助に関すること・会員相互の研修と親睦に関することなどを目的に活動しています。

また、近隣の小学校の入学式・卒業式・運動会・音楽会・展覧会・学芸会・周年行事などに出席し、小学校との協力体制の更なる向上を目指しています。

さらに、「教育界総会」「学校適正規模審議会」「心の教育推進委員会」「学校保健会」「区内幼稚園の「研究発表会」「教育懇談会」等に出席し、行政機関や、区内の幼小中学校との

連携も図ることも目的としています。年間の主な活動

【外部派遣講師による活動】

毎年、会員親子のコミュニケーションを図ることを目的とした外部講師を招いての活動を企画運営しています。

今年度は、「親子で楽しくリズムに乗って体を動かそう！」をテーマにダンスインストラクターの先生を招き、在園児親子だけでなく未就園児の



親子にも声をかけ、大勢で体を動かし親子で楽しい時間を共有することが出来ました。

【餅つき】

子供たちに伝統的な行事を体験させたいとの考えから毎年十二月のもちつきを係りが企画し、全会員が無理なく参加できる形で運営しています。



子供たちがつく様子を見たり、つきあがった

餅をすばやく丸めたりするなどした後には全親子で卓を囲み、和やかな雰囲気の中で、つきたての餅を味わうことは格別です。

【子ども会への参加】

園行事の一つである子供会の中で、保護者も子供たちと同様に歌や合奏などで参加し、親子ともに楽しいひとときが過ごせるように企画・運営しています。また、曲目や分担を決める楽しさとともに、みんなの前で披露する喜びや緊張感を保護者も一緒に味わう機会にもなっています。

【親子フラワーアレンジメント】

修了時期に合わせ、全親子でフラワーアレンジメントを行い、修了式会場に飾ることで、修了を皆で喜び、祝うという心を育てています。

同じ花材でも、子供たち二人一人の個性があふれる素敵な作品が並び、来賓の方々的心も豊かにさせています。

保護者にとって自己実現の場

①朝のハーモニー

週に二度、登園後三十分くらい講師の指導のもとで、季節の歌、子供たちがうたっている歌、心が豊かになる歌などを歌って楽しいひと時を過ごしています。大きな声を出すことで、ストレス発散や保護者同士の絆を深める場にもなっています。また、保護者の方々が自分の

世界を広げたり、力を発揮したりできる機会にもなってもらいたいと願っています。

②絵本の読み聞かせ

今年度より、「お母さん先生」として保護者の方から読み手を募り、木曜日の降園前十分程度、園児への絵本の読み聞かせに参加してもらっています。絵本を主体に読み手を選ぶ幼児、読み手を選んで側にいく幼児など様々ですが、目を輝かせて食い入るように見たり、耳を傾けたりしている子供たちの姿を見るにつけ、豊かな心が培われるこの時期に多くの絵本に出会う機会、そして、読み聞かせの楽しさを味わってもらう機会になつてほしいと願っています。子供たちにとっても母親が「お母さん先生」として活動している姿は自分の親に対する信頼や、友達のお母さんに



対する親しみを深める機会になると考えています。

以上が本園とPTAの概要ですが、今回の栄えある受賞を通し、今後さらに幼稚園・保護者・地域が絆を深め、子供たちの育ちを支え、伸ばして参りたいと思います。

子どもと共に楽しむ幼稚園生活

大阪市立旭東幼稚園

PTA会長 中渡瀬 禎也

この度、思いもかけず、文部科学大臣表彰をいただき、驚きと共に重みを感じ、この光栄に、感謝しております。

本園は、今年三十二年目を迎えました。設立からご尽力いただいた地域の方、これまでの歴代の保護者、教職員の方々の積み重ねられた幼稚園への思いが今回の受賞につながったものと拝察いたします。心からお礼申しあげます。

この受賞を期にあらためて子どもと保護者の幼稚園生活を振り返り、その軌跡を見てみると、一緒に楽しむことの大切さがしみじみと感じられました。

大阪市立旭東幼稚園は、大阪市の北東に位置し、旭区で唯一の公立幼稚園です。今年度は四歳児一クラス、五歳児一クラス、計二クラスでアットホームな雰囲気があります。

初めての出会いも楽しい親子遠足

園内はこじんまりして緑豊かです。子どもたちは、保育室からすぐに園庭に飛び出して遊びに行けます。また、近くに花の万国博覧会があった

鶴見緑地公園があり、年間通じて散歩に行きますが、春には親子遠足に出かけます。

広々とした爽やかな公園に集い、学級委員を中心にゲームをし、自己紹介をして、一緒にお弁当を食べます。初めて出会った保護者とも声をかけ合える良い機会です。

今年は、3つのグループに分かれて透明傘の新聞ボール玉入れをしました。子どもたちも大喜びでした。



保護者も一生懸命！運動会

秋の運動会は、毎年PTA競技にいい汗を流してもらいます。

前日、当日の準備から、全PTAの参加を募り、みんなで運動会を盛り上げます。子どもたちもそんな保護者の姿に感謝の気持ちを持ちます。今年のPTA競技では、2本の円柱

芯にボールをはさみ、運ぶことを競いました。二人の必死のチームワークに

思わず会場からも笑いが起こり、和やかなひと時をもつことができました。保護者の一生懸命な様子に子ども席からも頑張れの応援が飛びました。普段の生活の中では、なかなか経験できないふれあいをあげることができそうです。汗をかきながら、保護者同士の連帯感が自然と沸くようです。見るだけでなく、子どもと共に楽しむ運動会となります。



一緒に歌う音楽交流会

地域の旭東中学校からコーラス部の生徒さんが、毎年歌を披露しに来られます。子どもたちも歌い、音楽交流会をします。

保護者も送り迎えの時間に何度も練習し、音楽交流会に参加します。

歌の得意な方もそうでない方も、歌を一緒に楽しむという目的をもって、会にのぞみます。

一緒に練習を重ねる中で、新たな輪もできます。今年、子どもたちが全市の五歳児の集う大阪市立幼稚園音楽会で歌った「うたえんパン」と、「ヤッターマン」を練習しています。歌う楽しさを保護者も中学生も子どもたちも一緒に味わいます。

かわいいと大評判の手芸サークル

PTAサークル活動のひとつに手芸サークルがあります。

ビーズやぬいぐるみ、編みぐるみなど、作品を選び、幼稚園の空いた部屋に、参加したい保護者が集まって作っています。就園前の小さい子どもたちも一緒に、保護者同士が見合いっこしながら、そして、いろいろな話題に花を咲かせながら活動しています。

子どもたちの作品展に、発表のコーナーを二角もらって飾り、披露しています。子どもたちから「かわいい」「ほしい！」という声が上がります。



これからも子どもと楽しむ幼稚園生活に

幼稚園に通うこの時期は、やはり保護者と子どもが心も体も一緒に通い合わせて過ごす大切な時だとひしひしと感じています。

子どもへの手作りの大切さが、旭東幼稚園では綿々と語り継がれています。たくさんの人と出会い、かかわりながら、子どもも保護者も一緒に大きく育つことができる幼稚園生活を大事にしていきたいと思えます。

平成二十三年全国国立幼稚園PTA全国大会が大阪で開かれると聞いております。受賞を機会に心を引き締め、全国のPTA活動の益々の発展を願いつつ、これからも子どもと共に楽しむ園生活を目指します。

心豊かな感性を育むために

岡山市立芳田幼稚園

PTA会長 波之平あや子

この度、平成二十二年年度優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。誠に光栄でございます。心より感謝申し上げます。これまで代々受け継がれてきたPTAの方々の熱心な活動や、いつも温かくお力添えくださる地域の方々、ご指導くださる先生方のご尽力の賜物であると、重ねてお礼申し上げます。

今年四月、岡山市は政令指定都市に移行し、本園は岡山市の南西部に位置するので「南区」となりました。落ち着いた静かな田園都市でしたが、近年区画整理が進み、一般住宅大型マンションなどが増加しています。そのような環境の中で、子供達が「自然」と触れ合う場をなくさぬよう、そして人と関わる力や心豊かな感性が育つように、園・家庭・地域が一体となって子育てに取り組んでいます。

《PTA活動》

①あいさつカードと交通当番

昨年春より「笑顔であいさつ」のスローガン入りカードを作成し、全保護者・教職員は名札の裏に入れることで意識づけをし、気持ちのよいあいさつで二日が始まるように心掛けて

います。

また、園児は「あるこうとうばん」と書かれたたすきを順に回し、「たすきリレー」と称して、園から遠い子どもも親と手をつないで季節を感じながら登園し、カードにシールを貼ることで達成感を味わっています。「がんばってね」などの声かけもよく聞かれます。

その他、園門前に全保護者が当番制で交通旗を持って立つことで、交通安全やあいさつを意識するよい機会になっています。



「PTA作成手作りあいさつカード」

②保護者ボランティアの充実

「育て隊」「遊び隊」「読み聞かせ隊」と称して、多くの保護者ボランティアが園児との関わりを大切にに取り組んでいます。

「育て隊」

園児の農業体験の日に、引率を補助したり、収穫した野菜を地域の食育改善委員会の方に指導して頂き、調理したりします。

「遊び隊」

園作成の1日の保育計画を元に様々な大人が遊びに関わることで遊びの輪が広がり、同時に園児の安全面も確保しています。

「読み聞かせ隊」

絵本の楽しさを味わい、集中力、想像力を高めるために、季節や年齢に合った絵本を読み聞かせます。毎回読み手が変わるので、園児も楽しみにしています。英語の本を読むなど、思考を凝らした「絵本を楽しむ会」も行っています。

《地域との連携》

①食育体験

前に紹介した「農業体験」では、地域の方が提供してくださった畑を「にっこ農園」と名付け、園児や保護者が地域の方に指導を受けながら、種まきから収穫まで行います。季節



にっこ農園 「大収穫!!」

ごとの野菜の成長を目の当たりにし、「命をありがたいたたく」ことを実感します。

収穫された野菜は「カレーパーティー」「野菜パーティー」などで味わいます。穫れた野菜は随時家庭にも持ち帰ります。自分で収穫した喜びを味わい、野菜の苦手な子どもも少しずつ食べられるようになり、家庭でも食育を考える良い機会になっています。

②お茶会

地域のボランティア先生に、お茶の立て方から作法まで教えて頂き、日本の伝統文化に親しんでいます。PTA学級部が中心に手伝います。



お茶会 「お手前頂戴します」

④語りの会

三名の地域のボランティア先生が、昔話の素語りを聞かせてくださいます。昔のことは、園児達は理解できないこともありますが真剣に耳を傾けています。

そのほかにも「七夕まつり会」「もちつき」、隣接する芳田小学校の「よしだまつり」など、様々な形でたくさんの方と関わる機会を設けています。

《おわりに》

保護者は楽しみながらPTA活動に取り組んでいます。保護者のいきいきとした笑顔は、園児の元気な笑顔につながります。そして保護者は園児と同じ体験を共有することで園児の笑顔に寄り添い、喜びを感じています。

今後も子ども達の心豊かな感性を育むために、「何が必要で、何が出るか」を考えながら、園・家庭・地域が一体となり、共に育ち合うPTA活動を目指したいと思います。

③生け花遊び
地域のボランティア先生に、親子で散策し、見つけてきた季節の草花を中心に生け方を教えて頂きます。作品は個性豊かで、各家庭に持ち帰り、楽しめます。



全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会章

第48回全国国公立幼稚園PTA全国大会 愛媛大会ご案内

大会主題 **子どもたちの豊かな育ちを願って**
～伝えたい「愛」と「夢」と「おもてなしの心」～

期日 平成22年8月5日(木)・6日(金)
場所 5日(木) 大和屋本店・6日(金) ひめぎんホール



愛媛県 県旗

昭和27年5月5日制定
県の花「みかんの花」を圖案化したもので、白は純潔を、緑は平和と希望を、黄は幸福を意味します。

第四十八回 全国国公立幼稚園 PTA全国大会愛媛大会

愛媛大会 運営委員長 西松 秀樹

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会会員の保護者及び教職員の皆様、並びに関係者の皆様におかれましては、日頃より幼児期の子どものための健やかな育ちのために献身的なご尽力をされておられますこと、同じPTA活動に携わらせていただいている仲間一人として、心から敬意と感謝を申し上げます。



この度、平成二十二年度の夏、第四十八回全国国公立幼稚園PTA全国大会を、私ども愛媛松山の地で開催させていただきますことになりました。どうか、よろしく願います。

さて、百年以上前に「児童の世紀」を著したスウェーデンの教育学者エレン・ケイは、「われわれは子どもの心に美しい糸を、いねいに織り込まねばならない」との言葉を遺しています。

今、社会は、核家族化・少子化が進行し、家庭や地域の教育力の低下が指摘されるなど、子どもたちが健やかに育つていくための豊かな環境整備がなされているとはいえない状況であります。このような時代であるからこそ、幼児の成長を支え育んでいく

私たちが国公立幼稚園PTAの役割は大きく、私たちが確かに手をつなぎ合っている。一本の糸を縦横に紡ぎ合っている。子どもたちの心が、しっかりと美しい織物となつて完成していくように協力し合っていかなければならなりません。

愛媛大会の開催にあたっては、この「手をつなぎ合う」という理念を根本に据え、保護者と教師、保護者と保護者がどのようにつなぎ合っているかを豊かに育んでいくか、ということを共に考えていく大会としたいと思います。

そこで、大会主題の設定については、古くから瀬戸内交通の拠点として、本州・九州との交易が盛んであったと

ともに、四国八十八か所の要地であるという愛媛の土地と風土の特性から、「他者へのおもてなしの心」を最大限生かしたものとしたいと考えました。そして、それを具体的に表したものが、

伝えたい、「愛」と「夢」と

「おもてなしの心」

という、大会サブテーマであります。

人を育み包み合う「愛」

人をつなぎ結び合う「夢」

人を思いやる「おもてなしの心」

という三つのキーワードは、私たちがぜひ子どもたちに伝え残していきたい価値であり、「愛媛の美しい糸を紡いだ織物」として全国に発信していきたい願いでもあります。

今大会は、この三つのキーワードが、大会の連の流れの中に、確かに根付き流れているものとして考えています。

大会の概要は、次の通りです。

【大会概要(予定)】

◎第一日目 八月五日(木)

場所 大和屋本店

内容 役員会、理事会、発表者打合せ、情報交流会等

◎第二日目 八月六日(金)

場所 ひめぎんホール

内容 開会式、総会、講話、研究協議、記念講演、閉会式、等

第一日目の会場は、道後温泉の温泉街にある老舗旅館です。

ご承知のとおり、道後温泉は、日本書紀にも登場する日本最古の温泉です。夜はもちろん、朝風呂も格別の味わいがあります。今回のご参加を兼ねて、是非ごゆっくりとお湯に浸かってみてください。

第二日目は、その道後温泉に程近い、「ひめぎんホール」に会場を移します。研究テーマに沿って、研究協議や講演を通し、全体会行事を行います。

最後に、私たち愛媛大会のスタッフは、昨年度から準備委員会を立ち上げ、企画・構想・研究推進等に取り組んでまいりましたが、これからの幼児教育及び国公立幼稚園PTAのあり方について、愛媛からの発信を通して皆様と共に考えていくことのできる最高の場を設定しようとして、熱い決意を持って取り組んでいます。皆様方におかれましては、平成二十二年八月五日(木)・六日(金)を、どうか楽しみにしていただき、より多くの方が、愛媛松山の地へご参集いただきますようお願い申し上げます。

